

抱っこが変わると 未来が変わる



ビジョン **Vision**

“快適な抱っこやおんぶで
スキンシップを楽しめること”

“必要なときに専門家に
相談支援を受けられること”

それが当たり前のできる社会を目指します

私たちが 大切にすること **Policy**

- ◎目の前の親子のニーズを一番に考えます
- ◎特定の道具や方法にこだわりません
- ◎多くの選択肢を持ちます
- ◎多角的な視点での研究や
ディスカッションに努めます

一般社団法人 日本ベビーウェアリング協会 (Japan Babywearing Association)

◇正会員16名(理事4名/監事1名) ◇スタディ会員 92名
北海道、福島、千葉、東京、大阪 (2019年6月末時点)
兵庫、高知、福岡



厚生労働省主催
「すこやか親子21」
応援メンバー

一般社団法人
日本ベビーウェアリング協会



抱っこやおんぶを通した子育て家庭支援

Baby wearing

ベビーウェアリングとは

「道具を使って
抱っこやおんぶをすること」
(国際的な定義)

ベビーウェアリング コンサルタントとは

適切な抱っこの姿勢や抱っこ紐の情報をお伝えします。それぞれの親子にとって最適な抱っこ紐やおんぶ紐を選び使用できるようサポートする抱っこの専門家です。

全国で様々な専門家が活動しています

ベビーウェアリングコンサルタント、医師
助産師、保健師、看護師、作業療法士
理学療法士、保育士、心理士、幼稚園教諭
子育て支援員、整体師、歯科医師、IBCLC 等

適切で快適な
「ベビーウェアリング」が叶えること

子ども

- ・落下の防止
- ・窒息を予防
- ・股関節を守る
- ・様々な感覚刺激による発達の促進*¹

親子双方 ／ 家族

- ・愛着形成を促す
- ・コミュニケーションを容易にする



大人

- ・身体の負担が軽減する
- ・行動範囲が広がる
- ・心に余裕ができる

*¹適切な抱っこやおんぶは、視覚、聴覚、触覚、前庭覚、嗅覚固有感覚、触覚など様々な刺激となり発達を促します。

子育て家庭支援における 「ベビーウェアリング」の展望



産後うつや虐待を予防し 愛着形成を促す

「オキシトシン」は幸せホルモンと呼ばれ、出産時や授乳中、心地よい抱っこによって多く分泌されます。

オキシトシンは抑うつ状態の改善に関わる「セロトニン」の働きも高めるといわれています。

抱っこが快適になることで、母子の絆が強まり、産後うつの予防が期待できます。



父親の役割獲得を助ける

生まれてすぐから、父親が赤ちゃんを抱っこすることで父子の絆形成が深まります。

父親が自信をもって抱っこをできると、赤ちゃんのお世話が楽になり、子育てへの積極性を高めます。



子どもの未来への投資

胎児期から小学校に就学するまでの体験が、その後の健康や精神的な幸福感、学習能力さらには収入にまで影響するということが明らかになっています。

乳幼児期の生活の一部である抱っこやおんぶの質が良くなることで、子どもたちのより良い未来が期待できます。

当協会の取り組み

- ① ベビーウェアリング学習会
- ② 相談できる場の情報提供
- ③ 学会やイベントへの出展
- ④ 研究情報の発信
- ⑤ 海外スクールの招致

